

重点目標	共通項目	具体的取組	主担当	評価と観点	達成度判断基準	判定基準	評価の対象	R5前	R5後	評価	取組の現状とその要因、具体的改善点
1 確かな学力 指導力向上と学力の向上	① 共通	書くことを大切に授業(カリキュラム・マネジメント)	学習指導部	教【努力指標】 ・自分は書くことに生かすため、対話カードを使って目的を明確にした対話を行った。 児【満足度指標】 ・対話での学びを手掛かりにして、課題に対する自分の考えを自ら整理して書くことができた。	A: 回答のA+Bが90%以上 B: " 80%以上 C: " 70%以上 D: " 70%未満	A+Bが70%未満の場合 取組の検討・改善を 行う	教1-① 児7	86 89	100 91	A A	現状: 進捗に事前記載し、教師側が対話の目的を明らかにしておくことや、思考ツールを中心にICT活用、必然性のある対話を心がけたことが効果的な対話につながった。その結果、授業後半の充実や児童の主体性の育成へとつながり、教師側の意識も高まってきた。しかし、対話のターンが固定化したり、必要感がもたせられなかったりと、さらに効果的な対話を設定していくことが課題である。 要因: 対話が目的となり、従来の書くことにつながっていない。対話の意義を理解して取り入れることができていない。 具体的改善策: ①引き継ぎ、聞き合いカードの番号を授業の青欄みに明示し、目的を明らかにした対話場面を設定する。②児童が書いたものを数値で検証して考察し、次の指導に生かす。
		授業後半の深い学びの充実	学習指導部	教【努力指標】 ・自分は想定したB基準が達成できるように書かせて見取った。	A: 回答のA+Bが90%以上 B: " 80%以上 C: " 70%以上 D: " 70%未満	A+Bが70%未満の場合 取組の検討・改善を 行う	教1-②	87	100	A	現状: 対話が目的となっており、後半に余裕がもてない。 要因: 授業前・対話場面が中心となり、タイムマネジメントの関係からも、後半に深まりをもたせる授業展開となっていない。 具体的改善策: 進捗に聞き合いカードの番号を記載することで、授業後半の深めの発問に関わる対話場면을充実させる授業展開とする。
		学力向上プラン、評価問題等の活用	学習指導部 学年会	学力向上プラン検証問題 各学年期待正答率 教【努力指標】 ・朝昼学習で時間いっぱい、解説まで行った。 ・評価問題をできるまで複数回取り組んだ。	A: 回答のA+Bが90%以上 B: " 80%以上 C: " 70%以上 D: " 70%未満	A+Bが70%未満の場合 取組の検討・改善を 行う	教1-③	100	96	A	現状: 朝・昼学習において活用問題に取り組みできたが、問題文を理解して立式できても、計算力が身に付いておらず、計算が正確にできていない。 要因: 朝・昼学習や授業において、基礎・基本の指導が不十分。 具体的改善策: 朝学習で補充に充てる時間を増設し、ぐんぐんタイムも活用しながら基礎・基本の定着を図る。
		家庭学習の充実 予習、復習、自学ノートの推進 家庭読書平日(特に水曜日)15分以上、週末読書を推奨する。 「わたしの本だな」を週1回提出する。	学習指導部 学年会	教【努力目標】 ・よい自学ノートの紹介を理由を付けて行った。 児【努力指標】 ・自学ノートで予習復習をがんばった。	A: 回答のA+Bが90%以上 B: " 80%以上 C: " 70%以上 D: " 70%未満	A+Bが80%未満の場合 取組の検討・改善を 行う	教1-④ 児12	84 79	94 83	A B	現状: 教職員A+B評価94%、児童A+B評価83%となった。自学ノートの良い例を図工室前に掲示する取組を継続した。学年や学級によって取組状況に温度差がある。 要因: 進んで取り組む機会を保障したり、教師から勧めたりする動きが弱いためと考えられる。 具体的改善策: ノートを掲示するだけでなく、自学発表会を計画的に行い、自学を奨励する。
GIGAスクール構想実現に向けた取組の推進	⑤ 共通	クロームブックの効果的な活用	GIGA推進チーム 学習指導部	教【成果指標】 ・「青囲み」授業の対話場面でクロームブックを日常的に活用した。 ・毎月の活用ツールを効果的に授業で活用できるよう、学年会等で実践を交流した。 児【満足度指標】 クロームブックを使った授業はわかりやすい。	A: 回答のA+Bが90%以上 B: " 80%以上 C: " 70%以上 D: " 70%未満	70%未満の場合 取組の検討・改善を 行う	教1-⑤ 児2	95 96	96 97	A A	現状: 毎月、GIGA校内研修を行い、活用の方法や取組み例などを紹介する時間を設定した。紹介した活用方法を月目標に設定することで、「青囲み」授業以外にも対話場面でクロームブックを日常的に活用することができた。(週5以上の活用が85%以上) 要因: 教師側に活用しようという意識が定着し、学年や教科で教材を共有することで活用場が増えたと考えられる。 具体的改善策: これまで同様、研修会をこまめに行うことや、教材の共有化・ファイルの整理を促すことを通じて、学習のねらいに迫る活用ができるようにしていく。
小中の一貫した指導を見据えた、英語教育の充実		学習指導部 外国語担当	教【努力目標】 ・外国語・外国語活動において、単元の途中と終わりにcan-doリストを活かした振り返りを行った。 児【満足度指標】 デジタル教科書を使った英語の学習はわかりやすい。	A: 回答が 80%以上 B: " 70%以上80%未満 C: " 60%以上70%未満 D: " 60%未満	60%未満の場合 取組の検討・改善を 行う	教1-⑥	100	100	A	現状: 単元のゴールを決めて計画的指導案を作成し、担当で共有している。また、can-doリストを活かした振り返り用紙を作成し、それを活用することで、授業終了で振り返りを書き留めが児童自身にしている。しかし、課題を見出し次に生かそうと主体的に児童はまだ少ない。 要因: 振り返りの習慣は身に付いているが視点を与えていないため、学習への振り返りではなく、活動の振り返りを行っている。児童用デジタル教科書の活用が十分でない。 具体的改善策: 教材研究、授業準備を充実させ、児童が主体的・対話的に深く学ぶ授業を目指す。また、振り返りの内容を学びの視点と具体的に示す。また、児童に課題を提示し、児童用デジタル教科書を家庭学習等で効果的に活用する。	
2 豊かな心 生徒指導の充実	①	ルールの徹底	生徒指導部 学年会	児・保【成果指標】 ・あいさつを自分からできる。 ・きまりを守って生活している。 教【努力指標】 ・手本となるあいさつを率先垂範している。 ・毎月の生活目標について、学年学級の別なく、児童へ賞賛、注意の声掛けをしている。	A: 回答のA+Bが90%以上 B: " 80%以上 C: " 70%以上 D: " 70%未満	A+Bが80%未満の場合 取組の検討・改善を 行う	児13 教2-② 教2-①	93 96 100	94 100 100	A A A	現状: 挨拶は10月に意識が向上したが、その後下降気味である。きまりを守る指導は続けているが、廊下歩行ができない児童が見られる。 要因: 挨拶は9月の生活目標の際に頑張りが見られたが、生活目標が終了したことにより下降している。教師側の意識の低下が要因の一つと考えられる。廊下歩行に関して、未だに廊下を走る遊びをしていると危惧している時に意識が薄れる等が要因として挙げられる。 具体的改善策: 1月の生活目標を「学校中に挨拶を広めよう」とし、集会や放送で「自分から、立ち止まって、さわやかに」を言葉に教師、児童ともに意識を高める。決まりに関しては、高学年が手本となる意識をもたせるとともに、高学年が下級生を指導できるように、学年や委員会と協力し計画を立て、実行していく。
		リレーションの構築 (重点目標) ・ナイスレター、いいことみつけの取組を継続して行う。 ・努力を認める言葉かけを意識して行う。	生徒指導部	児・保【成果指標】 ・学校へ行くのが楽しい。 ・学校へ行くのが楽しいと言っている。 教【努力指標】 ・ナイスレター、いいことみつけを率先垂範している。 ・学年学級の別なく、児童への賞賛・注意の言葉かけを行っている。 ・年間5回以上、人間関係づくりに関する活動を行った。	A: 回答のA+Bが90%以上 B: " 80%以上 C: " 70%以上 D: " 70%未満	A+Bが80%未満の場合 取組の検討・改善を 行う	児1 保1 教2-②	96 92 95	97 88 100	A B A	現状: ナイスの伝え合い、構成的グループエンカウンターによって楽しく過ごしている児童が多い。ただ、不登校傾向の児童は、どの学年にもみられる。 要因: 学校の見取りや児童面談では問題ないと思われる児童でも、家庭では「学校に行きたくない」といっているケースが見られる。 具体的改善策: 些細な事や表情の変化にも目を向け、児童との面談や聞き取り、声掛けを増やしていく。また、クラスで行ったリレーションの取組を学年便りや学級便り、生徒指導便りや保護者に知らせる機会を増やす。
		授業での生徒指導の3機能 生徒指導の3機能(自己決定・共感的人間関係・自己有用感)をもたせることができたかセルフチェックする。	生徒指導部 学年会	教【成果指標】 ・毎月、生徒指導の3機能についてセルフチェックを行い、PDCAを意識して実践する。 児・保【満足指標】 ・授業は分かる。 ・授業は分かると言っている。	A: 回答のA+Bが90%以上 B: " 80%以上 C: " 70%以上 D: " 70%未満	A+Bが80%未満の場合 取組の検討・改善を 行う	教2-③ 保3 児2	100 92 95	100 93 97	A A A	現状: 全職員が意識して取り組んでいる。C・D評価がほぼない、A評価も増えてきた。 要因: 定期的なふり振り返りやふり振り返り結果から方策を職員会で提案し、それらを受けて向上しようと努めている職員が多い。 具体的改善策: BをAにするための方策を職員会議で提案する。項目の中には常にAであってほしいものもあるため、意識を高めるための呼びかけを行う。また、項目が多いため、職員会議で特に重点を置いてほしいものを提案する。
		特別支援教育の充実 ・通常学級における個別の支援の必要な児童、交流児童へ合理的配慮を積極的に行う。 ・ユニバーサルデザインの授業を行う。 (黒板に授業以外の物は貼らない、色チョークの分類、明確な指示等)	特別支援教育 コーディネーター 学年会	教【努力指標】 ・合理的配慮が必要な児童には、担任が1時間に複数回直接関わる。	A: 回答のA+Bが90%以上 B: " 80%以上 C: " 70%以上 D: " 70%未満	A+Bが70%未満の場合 取組の検討・改善を 行う	教2-④	100	100	A	現状: 全職員が意識して取り組んでいる。 要因: 構造的な指導や授業の見通しが分かるような視覚的な支援を意識して行っているためと考えられる。 具体的改善策: 今後も継続して声をかけることを意識し、構造的な指導や、授業の見通しがわかるような視覚的支援をしていく。また、特別支援学級児童には、交流時に交流先の教師が必ず声をかける。

重点目標	共通項目	具体的取組	主担当	評価と観点	達成度判断基準	判定基準	評価の対象	R5前	R5後	評価	取組の現状とその要因、具体的改善点
2 豊かな心 生徒指導の充実	⑤	道徳教育の充実 ・「考え議論する道徳」を実践するため、授業後半に価値について考え、思考を深める発問を行う。 ・ねらいとする内容項目について自分自身を見つめる場を設けた。	道徳推進教師	教【成果指標】 ・道徳科の授業の後半で、思考を深める発問を取り入れ、価値について自分とのかかわりで考えを深めた。	A: 回答のA+Bが90%以上 B: " 80%以上 C: " 70%以上 D: " 70%未満	A+Bが80%未満の場合 取組の検討・改善を行う	教2-⑤	100	100	A	現状: 教職員のA+B評価は100%、A評価は70%であった。要因: 校内OJTや道徳通信等で道徳教育について共通理解を図ってきたこと、「授業の終末に、自分との関わりで考えを深める場面を取り入れる」というのが定着してきている。 具体的改善策: 今後も引き続き、道徳コーナーや道徳通信等を通じて、思考を深める発問を紹介したり、効果的なOJTの活用方法について共有してしていく。
		3 自分から動く 特別活動	① 学級活動(1)(2)話し合い活動の充実 司会、記録を立て、提案された議題についての話し合い活動を指導し、行動決定し、実行する。	特活指導部	児【成果指標】 ・学級での話し合い活動に進んで参加することができた。 教【努力指標】 ・月1回程度、学級活動で司会・記録を立て、話し合い活動を行い、話し合いの技能を指導した。	A: 回答のA+Bが90%以上 B: " 80%以上 C: " 70%以上 D: " 70%未満	A+Bが70%未満の場合 取組の検討・改善を行う	児17 教3-①	89 82	91 95	A A
4 じょうぶな体 健康・安全・体力向上	①	安全教育の徹底 ・安全教育年間計画及び状況に応じた安全指導を行い、指導したことは週案に記載する。 ・児童の危険予知能力、危険回避能力を培う。	健康安全 学年会	保【満足度指標】 学校は安全指導を計画的に行っている。 教【努力指標】 ・活動について危険を予見し、事前に週案にメモして安全指導を行っている。	A: 回答のA+Bが90%以上 B: " 80%以上 C: " 70%以上 D: " 70%未満	A+Bが80%未満の場合 取組の検討・改善を行う	保12 教4-①	98 84	98 87	A B	現状: 保護者は学校が安全指導を行っていると感じている。また、前期よりは向上しているものの教師の中には安全指導を行うことができていないと感じている人もいる。 要因: 集会での話を聞いてや訓練後の事後指導ではしっかりと安全指導していると考えられるが、事前に週案にメモをしての指導が十分できていないと考えられる。 具体的改善策: 訓練を行う前や危険な行為があった際には、週案に載せる資料を用意して持ち帰り、学年会に組み込んで検討したりするようにする。
		② 体力づくりの全校取組 水泳・マラソン・なわとびの全校取組、遊び、スポチャレの取組を通して体力向上を工夫する。	体育担当 学年会	児【成果指標】 ・外遊びや身体を使った遊びをしている。(運動習慣) 教【努力指標】 ・授業等で週1回は課題克服への準備運動(ストレッチ・走る運動)を取り入れている。 ・スポチャレに挑戦した。(2種目以上:A、1種目:B、未実施:C)	A: 回答のA+Bが80%以上 B: " 70%以上 C: " 60%以上 D: " 60%未満	60%未満の場合 取組の検討・改善を行う	児18 教4-②	91 100	92 100	A A	現状: 教職員のA+B評価は100%、児童は92%が高かった。要因: 体育の授業をされている先生方の声掛けが有効に働いていると感じる。教師側も課題克服等を意識して取り組むことができたと考えられる。 具体的改善策: 3学期については、なわとびの取組みで、運動委員会と連携し、種目別大会の企画などを行う中で積極的に運動に取り組むようとする。スポチャレ等の取組みに定期的に取り組むことができるよう、雑礼や4thなどで声掛けを行う。
		③ 正しい姿勢・黙々掃除の徹底 ・正しい姿勢の重要性について学ぶ機会を増やし、日常的に姿勢を意識させる。 ・美しい環境を作るため、掃除の時間は黙って、一生懸命掃除をする心と態度を育てる。	健康安全 学年会	児【努力指標】 ・授業中に正しい姿勢を意識している。 ・黙って掃除をして、心も磨くことができた。 教【成果指標】 ・黙って心も磨くことを指導し、担当掃除場の児童は黙って掃除ができています。	A: 回答のA+Bが90%以上 B: " 80%以上 C: " 70%以上 D: " 70%未満	A+Bが80%未満の場合 取組の検討・改善を行う	児9 児21 教4-③	87 94 92	86 94 96	B A A	現状: 前期と比べ、教師は、掃除指導を行い児童が黙って掃除ができていないと感じている職員が増えたが、児童はあまり増えていない。 要因: 教師が指導した際には黙って掃除をしているが、教師がいない場合に黙って掃除ができていない児童もいる。 具体的改善策: もくもく掃除をすること、掃除用具をきちんと片付けることなどのルールについて共通指導ができるよう、6年生に伝える場を設けたり、校内放送をしたりするだけでなく、教師が巡回する等の見取りを大切にす。
5 つばたを愛する心家庭・地域連携	①	読書活動の充実 図書館利用指導計画を活用し、教科学習と関連づけた図書館利活用を行う。	図書担当 学習指導部	児・保【成果指標】 ・平日読書15分(水曜日を中心に)、週末読書を家でしている。 教【成果指標】 ・図書館利用指導計画に基づき、読書指導を行い、授業に活用している。	A: 回答が 80%以上 B: " 70%以上80%未満 C: " 50%以上70%未満 D: " 50%未満	A+Bが70%未満の場合 取組の検討・改善を行う	児10 保7 教5-①	80 37 85	78 37 90	B D A	現状: 児童アンケート、教職員アンケートでは、A+B評価が80%以上であったが、保護者アンケートでは37%であった。要因: 学校では、読書の時間が確保されており、児童や教職員は読書に取り組んでいるという意識がある。しかし、保護者は家庭で読書に取り組む姿が見られない児童もいるためDの評価となつていると考えられる。 具体的改善策: 今後も朝読書の時間や並行読書の時間等を活用して読書活動を充実させる。さらに、全校で「わたしの本だな」を福福に出し、家庭でも読書に親しむ場面を必ず設定したり、図書だよりを活用して「わたしの本だな」の取組を紹介し、共有する。
		② 積極的な情報収集 ・管理職への速やかな報告・連絡・相談 ・保護者との面談、電話等による家庭とのきめ細かな連絡・協力依頼	教務部 学年会	保【満足度指標】 ・学校は相談や提言に対し誠実に応えようとしている。 教【努力指標】 ・速やかな報告・連絡・相談と訪問・面談など適切な連絡・情報収集を行っている。	A: 回答のA+Bが90%以上 B: " 80%以上 C: " 70%以上 D: " 70%未満	A+Bが80%未満の場合 取組の検討・改善を行う	保14 教5-②	93 100	96 100	A A	現状: 保護者アンケートではA+B評価が96%(A40%)、教職員アンケートではA+B評価が100%(A71%)であった。要因: 前年同期、各担任のみならず、大切なことは週1回の学年会を中心に学年で共有し、丁寧な対応ができていた。生徒指導加配教員、特別支援コーディネーターを中心に、状況に応じて校内特別支援委員会を設立し、話し合う場を設けることで今後の指導に生かすこともできている。また、管理職にも速やかに報告することで、しっかり対応を図ることができている。 具体的改善策: 今後も「報告・連絡・相談」を呼びかけ、対応に当たって、生徒指導加配教員、生徒指導主事を中心に校内特別支援委員会、いじめ問題対策委員会での話し合いを大切に、必要な事項については速やかに全体で共有していく。
		③ 積極的な情報発信 (学習習慣・生活習慣の確立に向けて) ・参観の日を学期に2回設け、授業の様子を公開 ・来校者への明るい挨拶、教育公務員としての適切な身なり、言動、服務規律の徹底 ・便り等で広報・啓発等の取組、学級懇談での話題提供 ・積極的に地域人材、地域資源を活用する。	生徒指導部 学年会	児・保【成果指標】 ・南中校区のメディアルールを守っている。 教【努力指標】 ・家庭での協力が得られるよう、保護者への啓発や話題提供を行った。(学年だより、家庭学習、ノーメディア) ・来校者に明るいあいさつを率先垂範している。 ・教育公務員として身なりを整え、服務規律を守っている。	A: 回答のA+Bが80%以上 B: " 70%以上 C: " 60%以上 D: " 60%未満	A+Bが60%未満の場合 取組の検討・改善を行う	児23 保20 教5-③	90 74 100	89 68 100	A C A	現状: 生活アンケートのふり返りと実態調査の結果に相違が見られる。児童の自己評価は高いが、ノーメディアの取組の時のみ頑強で、その他は意識せずに日々を過ごしている児童が多いように思われる。 要因: 意識している児童と意識していない児童の差が大きい。保護者の中には児童に任せている家庭もある。 具体的改善策: 生徒指導便りや学級懇談を通して保護者の意識を高める。また、毎月の生活アンケート後にふり返りの場を設け、ルールを再確認する。
6 教職員の働き方改革・業務改善の推進	① 共通	勤務時間を意識して効率よく働くことに努めている。 ・ICT活用による業務の効率化を進める。 ・平準化のアイデアを出し合う。	学年会	教【努力指標】【成果指標】 ・年間年休を5日以上取得している。【成】 ・最終退校時刻午後8時を超えないようにしている。【成】 ・学年会、4部会で役割分担して、平準化に努めている。【努】	A: 回答のA+Bが80%以上 B: " 60%以上 C: " 50%以上 D: " 50%未満	50%未満の場合 取組の検討・改善を行う	教6-①	83	92	A	現状: A+B評価が92%(A56%)、C評価が9%となった。要因: 前期よりも肯定的評価が向上した。職員間には業務の平準化の意識は昨年度から浸透してきている。退校時刻については、決まらず午後8時を超える職員はいなくなった。 具体的改善策: 会議の時間を見直しをもつて確保したり、ICTを活用し、授業準備や業務の軽減化をさらに進めていく。